

行政調査報告書「健康福祉常任委員会」

令和7年7月23日～25日

■石川県加賀市 『創造性をはぐくむ保育実践事業について』

令和5年度から、北イタリア発祥の教育手法「レッジョ・エミリア・アプローチ」を取り入れた保育ビジョンを展開しており、子どもは「無限の可能性をもつ豊かな存在」として、自ら学び、考え、探求することのできる環境づくりに力を入れている。

まずは保育士を中心に市の掲げる子ども観を共有し、小学校、地域とも連携しながら教育改革に取り組んでいる。取組を始めて3年目なので、新たな教育プログラムの先進事例として、今後の活動や成果を改めて確認していきたい。



■石川県金沢市 『重層的支援体制整備事業について』



金沢市では、高齢者、障がい者、子育て世帯など複雑な困りごとを抱える生活困窮者に対して支援を行う「支え合いソーシャルワーカー」を社会福祉協議会が地区ごとに独自に設置している。支援には、信頼関係の構築が必要なことから、市の担当課だけでなく消防や警察などの関係機関と協力して、伴走型の支援を行っている。本市では支え合いソーシャルワーカーの配置はされておらず、担当課が個別支援、社協が地域づくりを担っていることから、金沢市のような連携の仕組みを参考にし、誰一人取り残さない地域づくりの実現を目指していきたい。

■茨城県境町 『子育て支援の取組について』

境町は人口増加政策として特に子育て世代の支援・移住促進に力を入れている。親子で遊べる場に加え、保護者が子どものそばで仕事ができるワーキングスペースを併設した「子育て支援センターS-WORK+KIDS」の設置や、町営の戸建て住宅に25年住むことで住宅がもらえる政策等、柔軟で実効性の高い支援体制が整っていた。本市は、子育て世代への充実した制度はあっても、若者世代は未だ流出傾向にあり、境町のような攻めの姿勢と柔軟性を持ったまちづくりの推進を図っていかねばと感じた。

